

くにさき少年少
女発明クラブ
事務局発行

発明クラブ通信



いろいろな音を発明しよう!

第3回クラブ講座

「変わった音づくりにチャレンジ！」

7月8日(土)に、3回目のクラブ講座が開かれました。今回は「音づくり」にチャレンジしました。こちよい音やさわがしい音などいろいろな音がみなさんのまわりにはあります。でも音がどうすればでるのか考えてみるのが今回のテーマでした。さらに自分で考えた新しい音をつくってみました。



1)音の速さは、1秒間に340m

皆さん音の速さを知っていますか?なんと1秒間に340mもすすみます。ではその音はどうして聞こえるのでしょうか。前回学習した空気があるからです。空気のふるえを振動(しんどう)と言います。この振動がみなさんの耳につたわると音が聞こえてきます。だから空気の振動で音が出ます。空気がないところでは、音は聞こえてきません。

2)音をつくってみよう!

さっそく自分で音づくりにチャレンジしました。紙コップをたたいてみたり、風船をふくらませて音をだしてみたりしました。中には塩



ビカンの先に口をつけて、音を出す方法を考えた人もいました。(音づくりの発表)

3)風船笛とストロー笛



風船笛は、風船の丸い部分をきりとります。もとの部分を口にくわえて、先の部分を両手で左右

にひきのばせば高い変わった音がでます。ストロー笛は、ストローを3cm程に切りとり、口もとを山がたになるように切れば完成です。ふく時は、口もとをつぶしてふくのがコツです。



4)ビニールホース笛

ミニールホースを15cm程に切りとります。口もとから3cmのところ、はばが5mmほどの三角の穴(あな)をあけます。➡



次にホースの先に2cmの丸い棒をさしこみ、口もとには1.5cm程の丸い棒を空気が少し入るようにつけてさしこめば完成です。

5)塩ビ管(かん)笛

今日のメインの塩ビ管をつかった笛づくりです。50cmの塩ビ管とT字型の塩ビ管を準備します。まずT字の長さにあわせてテープをまきつけ、T字管が



下に落ちないように塩ビ管にとおします。その時に1mmほどの塩ビ管がとび出るくらいにテープを

まきつけておけばよいです。

次にT字管をふたたび取り出し、片方のあなにビニール袋をまきつけ輪ゴムで根元をとめます。この時もミニール袋がとれないように根元にテープをまきつけておくとよいです。

最後に、またT字管を50cmの塩ビ管にとおしてT字管から息を吹き込めば音がでます。少し変わった低い音が出てきて、とてもおもしろく感じると思います。



(できあがった塩ビ管笛)

会員の様子(ようす)

○音がでないなあ～。どうして？→長い方の塩ビ管を右左に少しずらしてみるとちょうど音の出る(空気がでる)位置があります。

○途中(とちゅう)で音が出なくなったよ。どうして？

→吹いているうちに、T字管がだんだん下に向かってきて空気が出にくくなります。もう一度テープをまきなおしてみてください。先が1mmほど出ていれば大丈夫です。



やったあ～！音が
でたよ。

会員の感想

■音の出るしくみは、空気がふるえることで出ることがわかった。

■何度やっても音がでなかったけれど、出るようになって良かった。

※8月臨時講座の申し込みは、8月23日(水)までに事務局に連絡を!

日時～ 8月26日(土) 中会議室(人数多数のときは、アグリホール)

内容～ 発明くふう展作品づくり(会費無料、用意した材料があれば持参)

大分県発明くふう展の作品提出について

①作品説明書(配布済み)～くふう展参加の申込書になります。

まだできていない人は、8月26日(土)臨時(りんじ)講座(参加者が少ない時は中止)の時でもかまいません。最終のしめきりは、9月9日(土)の第5回講座までです。作品は後からでもかまいません。

②発明くふう作品～できれば夏休みの間につくってみましょう。作品のしめきりは、9月29日(金)までアスト1階の事務局に提出。作品はまとめてくにさき発明クラブが大分県の事務局にとどけます。作品がはやくできあがった人は、クラブ講座の時にもってきてください。

9月講座の ■日時 9月9日(土) 9:30～ ■場所 アストくにさきアグリホール

お知らせ ■内容 「発明くふう作品づくり」 または「おもしろものづくり講座」

■持ち物～ものさし、はさみ等 作品づくりの場合は 集めた材料があれば持ってくる